

マタイの福音書 24 章 1-14 節

「イエスの再臨に至る産みの苦しみ」

- 24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。
- 24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」
- 24:3 イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」
- 24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。
- 24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。
- 24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。
- 24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。
- 24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。
- 24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。
- 24:10 また、そのときは、人々がだぜいつまづき、互いに裏切り、憎み合います。
- 24:11 また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。
- 24:12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。
- 24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。
- 24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。

はじめに

マタイの福音書の五大説教の学びは、最後の説教に入ります。
これは非常に大切なイエスの教えです。イエスの再臨について語られているからです。
実際、弟子たちからの質問に対してイエスが答えられた中で、これがもっとも長い回答です。
この説教は、イエスが栄光と力を帯びて再臨される様子について、ご自身の口から説明される内容です。
イエスの再臨について自分なりの考えがある人は、その考えはとりあえず置いておき、今後 4 回にわたる聖餐式のメッセージから、イエスの御声に耳を傾けることが大切です。
ここでなされたイエスの教えは、苦難を予期させますが、同時に励みにもなります。
この 5 つめの説教は 4 回に分けてお話しますが、2020 年 2 月に学び終わるときには、これがひとつの説教であると受け止めていただきたいと思います。2 月の聖餐式のメッセージで、教え全体の概要を振り返る予定です。
イエスが弟子たちに語られた言葉は、その文脈の中で理解する必要があります。そして、そこから私たちの日常に当てはめることのできる原則を慎重に適用しなくてはなりません。
この 5 つめの説教は 3 節から始まりますが、その前に、いくつか踏まえておくべきことがあります。

a) ユダヤ人信徒の思想。

ゼカリヤ書 14 : 1-5 をはじめ、旧約聖書の預言者が教えているように、メシヤが来臨される前に患難の時代があるとユダヤ人は信じていました。

ゼカリヤ 14 : 1-9

14:1 見よ。【主】の日が来る。その日、あなたから分捕った物が、あなたの中で分けられる。

14:2 わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。町は取られ、家々は略奪され、婦女は犯される。町の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は町から断ち滅ぼされない。

14:3 【主】が出て来られる。決戦の日には戦うように、それらの国々と戦われる。

14:4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

14:5 山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、【主】が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。

14:6 その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。

14:7 これはただ一つの日であって、これは【主】に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に、光がある。

14:8 その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。

14:9 【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる。

旧約聖書の預言者たちには啓示されなかったので、彼らは「教会時代」を知りませんでした。この時代には、おもに異邦人がイエスの弟子となります。私たちが生きている現代はこの時代です。

ローマ 16 : 25-26

16:25 26 私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち、世々にわたって長い間隠されていたが、今や現されて、永遠の神の命令に従い、預言者たちの書によって、信仰の従順に導くためにあらゆる国の人々に知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを堅く立たせることができる方、

ですから、ユダヤ人信徒たちは、まもなくイエスが地上に王国を築かれると考えました。この王国が築かれる前に、ユダヤ人がひどい迫害に遭うというわけです。

ユダヤ人信徒たちの思想は、ゼカリヤ 14 章に照らすなら正しいのですが、タイミングが違います。

神はまず、異邦人にも恵みを差し伸べられます。

b) エルサレムの神殿の崩壊。

2 節で、イエスは神殿が崩壊すると予見されました。これは、紀元 70 年に実現しました。ローマ兵がエルサレムに攻め入り、神殿を焼き払ったことでイエスのおっしゃったとおりになりました。

神殿は全壊し、現在も残されている礎石のみとなりました。

弟子たちは、この出来事とイエスの再臨とを誤って結び付けました。

c) イエスの復活後の弟子たちの再臨に対する考え方。

イエスが死んで復活された後も、弟子たちはまだ、イエスが王国を築くために再臨されると考えていました。これは興味深い点です。

使徒 1 : 6-7

1:6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」

1:7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。

これらの背景を念頭に、3-14 節の学びに進みましょう。

1. 弟子たちがイエスに質問する。(3 節)

イエスは、弟子たちと一緒にオリーブ山におられました。弟子たちはイエスに、完全に正しいとは言えない解釈に基づいて、具体的なことを尋ねます。

弟子たちの質問の内容は、イエスが来られる前兆についてでした。イエスが来られることを指して、私たちは「再臨」と呼びます。けれども、弟子たちはそれがまもなく起こると思っていました。

彼らは、世の終わりのしるしについても尋ねました。

弟子たちにとって、「世の終わり」とは、すべての出来事の終わりであり、その結果、神の義の国がやってくることを意味します。

イエスはすでに、毒麦のたとえと地引網のたとえの中で世の終わりについて教えておられます。

どちらも、神の御使いがさばきに備えて悪者を集めることを象徴していました。(マタイ 13 : 39,49)

イエスは、弟子たちに世の終わりまでともにいるとも約束しておられます。(マタイ 28 : 20)

ですから、弟子たちはイエスが再臨して、地上に王国を築かれる前に起こるしるしが何か知りたかったのです。

イエスは、ご自身の御国を築くために地上に再び来られるという事実は否定しておられません。

2. 弟子たちに対するイエスの答え。(4-14 節)

イエスが弟子たちにお与えになった答えは非常に長いので、聖餐式のメッセージ 4 回にわたってお話しすることになります。そこで、この個所を 4 つに分けました。

今日、第一回目は、「悲しみの始まり」です。「産みの苦しみ」とも呼ばれます。

4-14 節で、イエスはご自身の再臨の前に起こる事柄を列挙されます。

a) イエス・キリストを騙る惑わし

再臨したイエス・キリストを名乗る者がたくさん現れます。

もちろん過去にも、イエスのご降誕以前に救い主を名乗る人物もいました。けれども、惑わされる人の数や惑わされる度合いが大幅に増すでしょう。

あらゆる奇跡を起こして、多くの人を欺くのです。

これは、イエスの語られた重要な預言です。

同じ警告が 23-24 節で繰り返されています。

イエス・キリストを騙る人は悪霊の力によってしるしや奇跡を起こし、多くの人々を惑わします。

現在、イエス・キリストが再臨の前に戻ってこられると教える異端が日本で活動しています。若い中国人が語る偽りの教えに注意してください。

とくに、インターネット上での情報には注意してください。

日本で今現在、人々を惑わす準備がサタンによって着々と進んでいるのです。

b) 戦争、戦争のうわさ

戦争も戦争のうわさも昔からありましたが、再臨の直前はもっと激しさが増します。

c) 飢きんと地震。

将来、食糧不足の時代がやってくることはすでにわかっており、農業界や食品産業では、将来の飢きんへの備えがすでに始まっています。

世の終わりの終盤には、恐るべき食糧危機となるでしょう。

d) 世界各国がユダヤ民族を憎む。

この不穏なしるしは長年続いています。

ヒトラーは第二次世界大戦中のヨーロッパで、ユダヤ人を全滅させようとしていました。現在では、イスラム教徒がユダヤ民族を滅ぼそうとしているようです。イスラム教の勢力が高まるとともに、反ユダヤ思想が強まるでしょう。最終的には、米国でさえ国の大部分が反イスラエルに転じるでしょう。

e) 不法がはびこり、人々の愛が冷め、多くの人が福音のメッセージに反感を持つようになる。

これらが世の終わりの兆しだというのはわかりやすいことです。そして、それはもう始まっています。

現在の英国では、多くの人が福音のメッセージに反感を抱きます。

福音の真理を公衆の場で語ることは英国ではできなくなりました。米国でもまもなくそうなるでしょう。

14 節に至ってイエスが再び来られるまでに、これらの現象がひとつの時代に非常に激化するということを知っておく必要があります。

マタイ 24 : 34

24:34 まことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去りません。

つまり、これらの現象が深刻化し、世界中で恐ろしいことが 25-30 年間起こり続けるということです。

聖書が語るひとつの時代は 25-30 年です。

来月に 15-44 節を読むと、さらに恐ろしい事柄が記されています。

けれども、40-41 節には良い知らせがあります。ですから、クリスチャンなら過剰に恐れる必要はありません。

携挙を信じないクリスチャンもいますが、私は信じています。来月は、その事実をもって、皆さんを励ませるでしょう。

クリスチャンにとって大切なのは、まだ間に合ううちに、福音を告げ知らせ、教えることです。

福音を語るができないときがいずれやって来ます。

けれども幸いなことに、世の終わりが来る前に福音のメッセージは全世界に宣べ伝えられます。

私たちの務めは、再臨の前兆を神経質に気にすることではなく、福音を告げ知らせることです。そうすれば、手遅れになる前に救われるチャンスを人々に提供できます。

では手短かに、御国の福音とは何か、理解しておくべき 7 つの要点を挙げておきます。

1. 聖書の神は、この世で唯一の神である。たくさんの神々は存在しない。

他の神々は人間が作り出した偽りの神であり、偶像です。ですから私たちを救ったり助けたりすることはできません。

2. 聖書の神は、私たちの創造主であり所有者である。

神はそれぞれ目的をもって最初の男と女を造られました。それは、神と永遠のつながりを持たせるためです。神は私たちを造られた創造主という意味で私たちの所有者でもあられます。たとえるなら、私たちが自分で何かを設計して作ったとします。カヌーのパドルでも、和風建築物でもよいでしょう。それを誰かが壊したらどうでしょう。せっかく建てた家を誰かが燃やしてしまったら腹が立ちませんか。誰かがパドルを壊して釣りに行けなくなったらいやな気持ちになりませんか。もちろん怒るでしょう。使うつもりで作ったのに、もう使えなくなってしまう。

3. 神が人間を造られたのには目的があった。その目的とは交わりである。

神は最初、アダムにたったひとつの規則だけをお与えになりました。そして、自由意思もお与えになりました。ですから、アダムはロボットのようにありません。ロボットは愛情表現をしたり、本当に愛したりすることはできません。家にアイボやペッパーくんなどのロボットを置いている人もいるかもしれませんが、人間とは違います。

4. 神は、唯一の規則を破ると永遠に生きることはなく死んでしまうと最初の人間に警告された。

死が不従順の罰でした。

5. 残念ながら、アダムは神から与えられた唯一の規則を破ってしまい、全人類に死をもたらした。

ローマ 5 : 12

5:12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

これが、この世に死が存在するたったひとつの理由です。

死を迎える年齢はそれぞれさまざまです。

死に方も、事故、飢餓、病気などさまざまです。しかし、私たちはいずれ必ず死を迎えます。唯一の例外は、私たちが死ぬ前にイエスの再臨が起こって私たちを天国に連れて行ってくださった場合のみです。

6. 神はご自身の造られた人間を愛されたので、ご臨在の中に再び迎え入れる道を与えられた。

けれども問題がありました。神は完全に聖なるお方で、罪深く不従順な人々とともにいることはできないのです。

ですから、ご自身の聖さを妥協せず、人類の罪を罰する方法を準備しなくてはなりませんでした。

聖書の神にとってこれを可能にする唯一の方法は、神のひとり子イエス・キリストをこの世に遣わすことでした。

7. イエスが遣わされた目的は、私たちの身代わりになられるためである。イエスが私たちの罪の罰を受けられる。

ヨハネ 3 : 16

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

イエスが私たちの罪を取り去ってくださるのです。

8. 皆さんに尋ねなくてはならないことがあります。あなたは、死ぬとき自分の罪を罰せられたいですか。それとも、イエスにごめんなさいと言って、罪を取り去っていただきたいですか。

ただそれだけです。

聖なる神の御前で自分の罪深さを示されたなら、今日、どうか「リフト」の看板まで来て、誰かと話してください。

今日感じたことを誰にも話さずに帰らないでください。

マタイ 11 : 28-30

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」